

# 新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

新型だ、英国型だインド型だと聞いていたら、混合型まで出てきた。どこまで続くのか。混合型の次は新混合型まで出て来はしないか。いい加減にしてほしい。私たちは手洗いと換気など、日ごろから心がけるしかない。そして、頼むぞワクチン、がんばれ、と祈るしかない。新しい生活様式には慣れてきてしまって、そのうちに、新しく感じなくなるのだろうか。

コロナウイルスの収束はいつの日か。

かぜまちつき

## 風待月 ～ささやかな風を感じて～

6月の異名といえば水無月ですが、語源は諸説あります。旧暦6月は夏の盛りだったことから、水も涸れ尽きるという意味で水無月。田に水を引く月なので、水の月という意味で「水な月」(「無」は当て字)。農作業をみんなやり尽くした「皆し 尽き」から水無月。雷が多いことから、「かみなり月」が「みなづき」に変化し、水無月。

異称も多く、涼暮月、<sup>すずくれづき</sup> 蝉羽月、<sup>せみのほづき</sup> 鳴神月、<sup>なるかみづき</sup> 松風月、<sup>まつかぜづき</sup> 夏越月、<sup>なごしのつき</sup> 葵月、<sup>あおいづき</sup> 常夏月、<sup>とこなづき</sup> そして、風待月・・・どれも美しい呼び名ばかりです。蒸し暑い日が続くと、風を恋しく待ち、ほんのささいな風にも喜びを感じることができます。

人々が、様々な名前と呼んだこの月は、心が敏感になっている、すてきな証かもしれません。

(山下景子「美人の日本語」より)

## クラブ連絡会総会 6月5日土曜日

講堂1、2を使って、密を避けるために、利用曜日ごとに2回に分けて行いました。

令和2年度事業報告、3年度事業計画、新役員の選出等提案され、承認されました。

令和3～4年度の役員は次の方々です。

会長	園田敏光さん(わかば水墨会)
副会長	平原邦子さん(おりがみサークル ABC)
書記	岩井政雄さん(空手塾)
書記	池田保子さん(民謡サークル)
会計	狩野充代さん(ゴールドンタートル)
会計	奥村少枝子(サントーシャ)
監事	藤代恵子さん(絵手紙同好会)

どうぞよろしくお祈りします。



令和3年度 第5号  
令和3年6月7日(月)  
発行 千葉市新宿公民館  
住所 中央区新 2-16-14  
電話 043-243-4343

## 主催事業 ～親子講座～

\*ふれあい遊びやものづくり①

### 第1回:6月1日 火曜日

参加された方のアンケートの一部を紹介します。

- ・同年齢の子と遊べる機会がなかったのでよかったです。おもちゃ、歌…楽しい雰囲気でも娘もとっても喜んでいました。
- ・歌に工作と、充実した時間を過ごすことができました。人数もちょうどよかったです。
- ・家でも作れる安全な手作りおもちゃを教えてくださいありがとうございました。
- ・とても楽しく、親子で、刺激的で有意義な時間を過ごすことができました。・・・

とても元気な講師の荒牧先生のご指導で、和やかに進められました。ギター演奏からの自己紹介や手遊び、雨の日に傘を入れておくビニール袋で作ったロケットを飛ばしたり、親子のふれあい遊びなど、盛りだくさんの内容でした。1、2歳児の動きがほほえましく、可愛さに、私も笑顔でしかいられませんでした。

次回は6月15日です。どんな遊びが待っているでしょう、楽しみです。



## 主催事業 ～ハーブ活用術～

③スパイス類づくり(6月3日)

参加された方のアンケートの一部を紹介します。

- ・とても楽しい教室でした。来年もぜひ開催していただけたら嬉しいです。ハーブを使って生活を楽みたいです。
- ・少しずつ家庭でも使ってみようと思います。
- ・本日で最終、寂しいです。

- ・いろいろなスパイスを知ることができ活用できそうです。
- ・いろいろ作れてとても参考になりました。
- ・細かい手仕事で大変でした。でもスパイスの名前が覚えられてよかったです。また来年も参加したいです。・・・大好評の講座でした。コロナ禍のため、少人数での開催にしなければならなかったのは残念でした。また次回をお楽しみに。

## 父の日

6月第3日曜日、今年は6月20日は、父の日。先月の母の日に比べると、劣勢に扱われている気がします。“母の日にはカーネーション”という観念がはっきりしないところがあるからかもしれません。一緒に暮らしていたころは、母の日は知っていても父の日は知らず、まったく意識はしていませんでした。遠く離れて暮らし、結婚して、妻が毎年花やポロシャツなどを送ってくれていました。帰省すると大切そうに着ていたことを、母が話してくれていました。

私がまだ小さい頃は、父は働くことばかりで強い人でした。小学校5年生ころ、腕相撲をしたのですが、軽く負けた記憶があります。父に触れた数少ない記憶です。

今年の1月、父は息を引き取りました。ノロウイルスから誤嚥性肺炎となり、入退院を繰り返しながら体は衰弱していきました。認知症が少しずつ進み、最後の3年間は、私のことはうっすらとしか覚えていなかったようでした。あれこれ言われるのが嫌で、話を合わせている節も見られました。変わっていく父でしたが、千葉に戻る日の朝には必ず、「体だけは気をつけてとってくれよ。元気でおればなんとかなるけん。」と声をかけてくれました。自分の体が一番弱っているのに、一つ覚えのように毎回繰り返し、それが別れの言葉になりました。毎日の生活では、兄をずいぶん困らせたようでしたが、徘徊することはなかったことに、兄は安堵もしていたのでした。いよいよ容体が悪くなっても病院に見舞うこともできず、父は一人で旅立ちました。棺に眠る父の顔を間近に見たのはその時が初めてでした。そして私の鼻の形は、父からもらったことに気づいたのでした。

幼いころ、死ぬはずがないと思っていた人との別れなのに意外とこみ上げるものもなかったのは、私がこの年になって、いつかこの日が来ることを覚悟していたからなのでしょう。

“91歳、よう頑張ったね。頑張るけん、見とって。”

父の日は、母の日と同じように、いつまでも想いをぐるぐる巡らせる日にしたいと思っています。

( 新宿公民館館長 迎 浩二 )

<sup>かたつむり</sup>  
蝸牛 ～スローな歩みを消さないで～

蝸牛の「かた」は「潟」、陸(おか)を意味します。「つむり」は「つぶり」が変化したもので、巻き貝という意味です。

「でんでんむし」は、「出よ出よ、むし」が「ででむし」→「でんでんむし」と変わっていったもの。「まいまい」は、「舞え舞え」または「巻き巻き」が変化したといわれています。

～舞へ舞へ かたつぶり 舞わぬものならば  
馬の子や牛の子に蹴させてむ

踏み割らせてむ まことにうつくしく舞うならば  
花の園まで 遊ばせむ (「梁塵秘抄」)

梅雨のころ、アジサイの葉の裏にへばりついていた蝸牛。最近めっきり見かけなくなりました。古くから親しまれてきた蝸牛のゆっくりした歩みこそ今の時代、見直したいことだと思うのですが。  
( 山下景子「美人の日本語」より )

<sup>ろれつ</sup>  
呂律

雅楽では、「ドレミファソラシド」ではなく、十二律という音階を使うそうです。だいたいレの音から「壹越(いちこつ)、断金(たんきん)、平調(ひょうじょう)、勝絶(しょうぜつ)、下無(しもむ)、双調(そうじょう)、鳧鐘(ふしょう)、黄鐘(おうしき)、鸞鏡(らんけい)、盤涉(ばんしき)、神仙(しんせん)、上無(かみむ)」。

そのうち、「断金(レ#)、勝絶(ファ)、双調(ソ)、黄鐘(ラ)、盤涉(シ)、上無(ド#)」を「呂(りよ)」残りを「律」といいました。合わせて「呂律(りよりつ)」。これがなまって「ろれつ」になったのだといわれます。

「呂律が回らない」というと、上手に旋律が奏でられないという意味になるのですが、今ではもっぱら、舌が回らず、はっきりしゃべることができない様子を形容する言葉です。

でも「呂律が回る」といういい方もあるんですよ。きちんと言葉でしゃべることです。みなさん、ちゃんと呂律は回っていますか？

( 山下景子「美人のいろは」より )

アジサイに 五月雨ばつり 花舞台  
アジサイの色 移ろいに 癒されて

アジサイは 移りにけりな いたずらに

花言葉は「移り気」・・・ククク